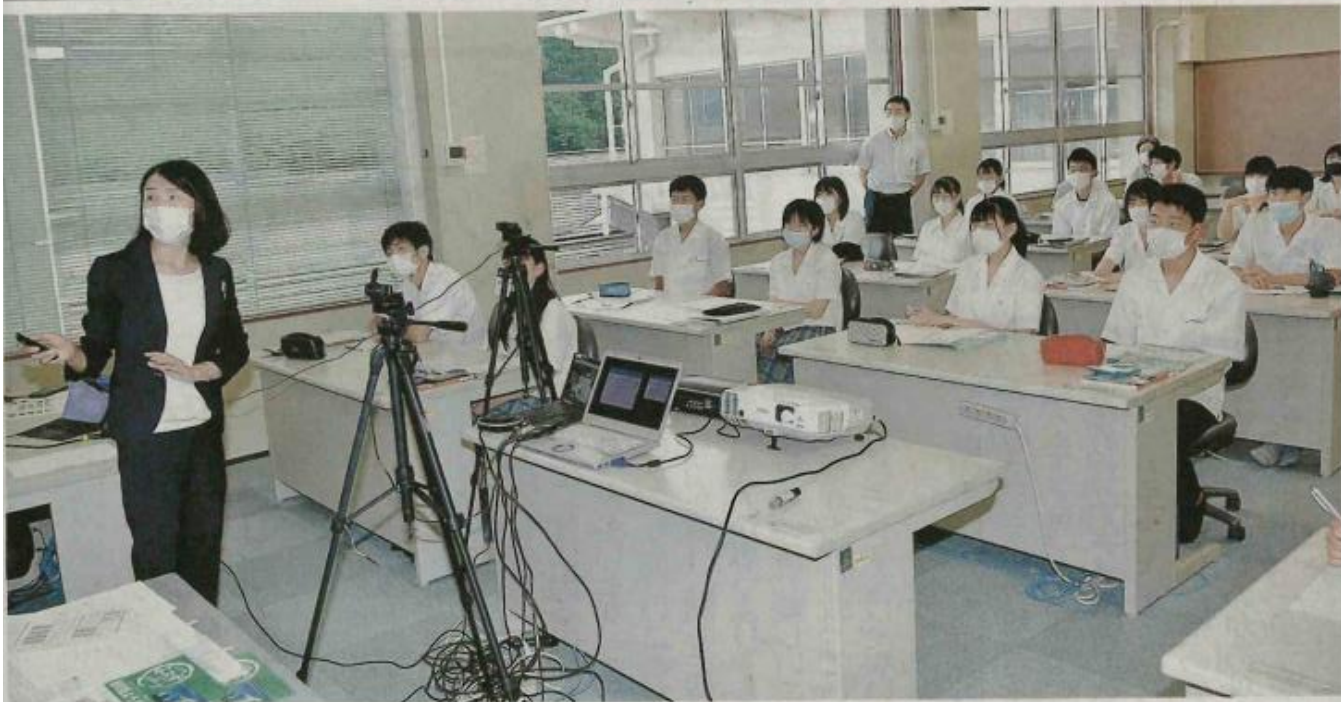


問題解決手法を学ぶ
飛騨高山高校生と高
山市下岡本町、同校

飛騨高山高と飛騨神岡高、遠隔授業



オンライン 問題解決学ぶ



飛騨高山高校(保木もも)の授業 (左:保木)



オンラインで学ぶ飛騨神岡高校生の画像



WEB会議03 飛騨神岡高校

高山市下岡本町の飛騨高山高校岡本校舎と、飛騨市神岡町小萱の飛騨神岡高校による情報通

ICT活用、専門家と社会貢献探る

同事業は本年度から県が取り組んでおり、両校のオ

ンライン授業では経営相談所「県よろず支援拠点」のコーディネーターを講師に地域社会発展に貢献できる人材を育成するのが目的。

第1、2回の授業では、まず問題解決手法とは何かを学んだ。2人一組になって身の回りの悩みを、互いに質問しながら、問題点を明確にし、解決方法を導き出す練習を行った。「朝早く起きられるようにするには」という悩みに対し、なぜ早起きしたいのかという質問で、寝癖を直すのに時間がかかるという課題を見つけ、「髪を短くする」「寝癖が付かない寝方を工夫する」「朝シャンプーをする」といった解決法を見つけ出すなどそれぞれに実践した。

なさん(18)は「授業を通して、社会に出てから役立つよう問題を自分で解決する力を身に付けたい」と感想。同拠点チーフコーディネーターの松岡隆さんは「答えを導き出すために、どれだけ手と頭を使ったが重要であることを学んでほしい」と話した。

家族を守る方法 防災授業で学ぶ

高山市の北小児童

高山市桐生町の北小学校で防災授業が行われ、5年生118人と6年生97人がそれぞれ災害時に自分や家

信技術（ICT）を活用した「遠隔教育実証研究事業」が始まった。両校の3年生計43人が、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って、12月まで10回にわたり「コロナ禍における飛騨地域の観光産業」をテーマに問題解決手法を学ぶ。（森嶋哲也）